

第5回福山市学校教育環境検討委員会の議事概要

1 日 時 2014年（平成26年）5月29日（木） 10:00～12:00

2 委 員

◎委員長，○副委員長

名 前	役職名	名 前	役職名
◎秋川陽一	福山市立大学教育学部教授	森美智代(欠)	福山市立大学教育学部准教授
○永井純子	福山平成大学福祉健康学部教授	村上勝士	福山市自治会連合会会長
小野明人(欠)	福山市民生・児童委員協議会会長	藤井春勝	福山市公民館長会会長
平田誠治(欠)	福山市PTA連合会会長	藤原理絵	福山市PTA連合会監査委員
西本紀子	福山市PTA連合会女性部会長	岡本康成	福山市子ども会育成協議会会長
荒木一夫	福山市公立小学校長会会長	川崎富男	福山市公立中学校長会会長
松本茂太郎(欠)	福山商工会議所副会頭	喜多村祐輔	福山青年会議所理事長
藤本和士	連合広島福山地域協議会事務局長		

3 概 要

(1) 教育長挨拶

(2) 事務局報告

第4回検討委員会の概要

(3) 審議事項

I 答申の目次の柱建て（案）

II 教育効果を高めるための望ましい学校規模等の基本的な考え方について

III 社会の変化に対応する教育環境の整備に向けた具体的な方策について

【意見】

《答申の目次の柱建て（案）について》

- ・答申の全体の構造案である『答申の目次の柱建て（案）』については、（案）のとおりの方角でまとめることとする。

《教育効果を高めるための望ましい学校規模等の基本的な考え方（中間まとめ）について》

- ・望ましい学校規模，学級規模については，これまで議論してきたとおり，適正な範囲が正確に反映されていると思う。
- ・参考として記載している「主な意見」については，少数意見も含まれているため，答申における取り扱いを検討する。
- ・これまでの議論の中で，望ましい学校規模等を考える上では，統廃合も視野に入れて考える必要があるのではないかとの意見もあったが，統廃合をした場合の課題は様々考えられることから，

本委員会では、統廃合も含めて検討するということまでの見解は出さない方が良いと思う。

- ・中間まとめを基に、引き続き、小中一貫教育を進める上で、教育効果を高めるための学校規模等の観点から議論を深めることとする。

《小中一貫教育校の望ましい学校規模について》

- ・「小小間、小中間の連携が難しい。」ということから、一体型小中一貫教育校が望ましいということが言える。
- ・中学校区が大規模校のため、規模が大きすぎて一緒に交流することが難しい。
- ・それぞれの校区の実態に即しながら、それぞれのやり方で9年間をつなげていくということが大切なのではないかな。
- ・学校規模が小さくなっている学校の児童生徒数を中学校区全体で確保するために、一体型の小中一貫教育校を作るという方法もあると思う。
- ・福山市において、モデルとなる一体型の小中一貫教育校の設置に着手し、成果と課題を明らかにしながらこれからの小中一貫教育を考えるということも必要である。
- ・子どもにとっては、小学校から中学校への進級時の移行が難しいのではないかなと思う。小学校の担任制が、中学校になったら教科担任制に変わり、大きく環境が変わる中で、課題が発生している。紹介のあった併用型の小中一貫校であれば、移行がスムーズにいくのではないかなと思った。
- ・6・3・3・4制での節目も大切だが、接続の区切りを、できるだけスムーズに通過させるということで、小中・中高の接続を柔軟に考えても良いのではないかな。
- ・来年度から小中一貫教育が完全実施になる。中学校区としては大規模の校区に所属しているが、そのような中でも、中期（小5・6年生）の部分で、中学校教員の乗り入れ授業を行い、カリキュラムを作って試行実施しているが、中学校入学前に、中学校のスタイルを学ぶことで、不安感が大分解消されている。連携型の中でも、支援する職員の配置があると、小中一貫教育をより効果的に築いていけると感じた。
- ・連携型の小中一貫教育を考える上では、中学校区の学校規模で考える視点が必要ではないかな。また、一体型の小中一貫教育校については、是非モデル校の整備を検討し、その結果が一体型の学校規模や諸課題を考える指針になるのではないかな。

《中高一貫教育について》

- ・福山市では、小中一貫教育の推進とともに、福山中・高等学校において、中高一貫教育を推進している。子どもの選択肢として、どう考えたらいいのかな。
- ・小中一貫教育の取組として、小中9年間を見据えた教育を行っているにも関わらず、国公立の中高一貫校へ進学することとの兼ね合いが心配である。計画的に教育を行っているにも関わらず、中高一貫校へ行くとシステムが変わるということになる。

《社会の変化に対応する教育環境の整備に向けた具体的な方策について》

◆情報化・グローバル化に対応した教育環境

- ・幼少期から、英語を聞く力を養うため、ヒアリングができるような環境を学校に作っていただきたい。例えば、ネイティブの人の発話をふんだんに聞くことができる環境が望ましいが、視聴覚設備でそれを補うことができると良い。
- ・授業に、電子黒板やP Cなどの情報機器が必要ではないか。連携型の小中一貫教育を行うに当たっては、学校間の距離が離れており、移動に安全面等で課題があるため、こういった通信手段で補えないかと思う。
- ・情報機器を活用すれば、教員間・児童生徒間で、テレビ会議等を行うことができる。ただし、教員の情報機器を使いこなす力量が必要である。導入当初は、サポートする情報専門のスタッフが必要かもしれない。
- ・小中一貫教育で、小学校から中学校、高等学校受験までの、英語教育のカリキュラムを充実させていただきたい。

◆地域連携

- ・地域では、ボランティアが、登下校や校外学習で学校をサポートしているが、先日初めて開催した学区の運動会で、子どもだけではなく、子育て世代とも交流でき、大変有意義であった。
- ・小中一貫教育では、自分が住む中学校区のことを知るということも大切だが、福山市全体のこと分かる、学区外の地域のこと分かるということも大切である。他の中学校区の子供達との間で、学区の良いところを伝え合うという試みもあっていいのではないか。
- ・ふるさと学習として、まず自分の校区を知る、地域の人を知る、地域の人と交流するという取組を行っている。今後は、共通のものを視点にして、校区間の情報交換を仕組むことができないかと考えている。さらに、小学校間で、お互いに自分の地域を案内するという交流をしていきたいと考えている。案内するとなると、子供達はそのために勉強し、ふるさと学習が深まると思う。
- ・ふるさと学習は、自分の校区だけでなく、福山市全体もとらえた学習をしていけたらと思う。学校間同士の連携を子どもの学習に反映したい。

【まとめ】

- 諮問事項1については、これまでの議論を踏まえ、小学校及び中学校の望ましい学校規模・学級規模に関して、中間まとめを行った。今後も議論を深め、最終答申として整理していくこととする。
- 次回の会議以降も、答申に向けて、諮問項目ごとに議論をまとめ、それを基に、議論を深める。
- 諮問事項2は、論点を絞りながら議論を深め、諮問事項3については、学校給食について協議する。
- 可能な限り、委員に、関係資料を事前に送付し、当日意見をいただくようにする。